

「世界のムナカタ」を杉並で

棟方志功と杉並 -「荻窪の家」と「本の仕事」-

世界的な評価を得る版画家・棟方志功。国際的な名声を得たのは、彼が杉並に居を構えた時代と重なります。青森市、中野区、南砺市と棟方ゆかりの地で開催されてきた「棟方志功サミット」が11月28日、「大成の地」杉並で開催されるのを記念し、杉並区立郷土博物館では「棟方志功と杉並-「荻窪の家」と「本の仕事」-」展を本館と分館で同時開催。棟方と杉並の関わりにスポットをあて、彼の魅力に迫ります。

青森で生まれた棟方志功は、上京後、大正15年には阿佐ヶ谷に、また、昭和26年からは荻窪の地に居を構え、亡くなるまで杉並に住み続けました。

本館展示では、まず棟方の住んだ「荻窪の家」に焦点をあてます。今回の展覧会のために制作したアトリエを中心とした家の詳細な俯瞰図を展示するほか、観音様が描かれた棟方が言うところの「大安心所」である厠を実物大で再現しています。また、昭和初期の頃、版画を始めるのと並行して挿絵画家としての活動も始めた棟方の「本の仕事」にも着目します。谷崎潤一郎の著作「鍵」をはじめ、生涯で手掛けた本の装幀や挿絵などは千冊を超えますが、そこでも棟方はそれまでの常識を覆すような大胆さをもって挑みました。彼が文学者とともに生み出した、唯一無二の本の世界をお楽しみいただけます。そのほか、世界を代表する国際展・ヴェネツィア・ビエンナーレでグランプリを受賞した「柳緑花紅頌(りゅうりょくかこうしょう)」や、角川源義の依頼で制作された「光明妃の柵(こうみょうひのさく)」などを展示するほか、映画上映やワークショップも行います。



▲実物大で再現した厠「雪隠観音」

分館では、棟方を支えた人々や、棟方と交流のあった杉並の人々ゆかりの作品のほか、荻窪の家に通り、昭和30年前後の棟方の日常を撮り続けた原田忠茂氏の写真、棟方が手掛けた和菓子店の包装紙などを紹介。本館・分館合わせて「世界のムナカタ」と「杉並の棟方」に浸っていただける展示となっています。

企画展「棟方志功と杉並-「荻窪の家」と「本の仕事」-

【日時】10月30日(土)～12月5日(日) 午前9時～午後5時

(会期中休館日:毎週月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)、11月18日(木))

【会場】杉並区立郷土博物館【本館】(大宮1-20-8)

【分館】(天沼3-23-1 天沼弁天池公園内)

【観覧料】本館 100円(中学生以下、障害者手帳を提示する方およびその付き添いの方は無料)、分館無料

【問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館【本館】03-3317-0841

【分館】03-5347-9801